

<p>(氏名) 米本 清</p>	<p>(学部) 地域政策学部</p>
<p>1 重要事項</p> <p>①中核市等の将来に関する研究 日本学術振興会科学研究費・若手研究 (B) 研究代表者「少子高齢化が進む都市システムの中で中核市等が果たすべき役割に関する研究」(平成 27 -30 年度) の 3 年目として、中規模都市を含む都市システム理論の研究を行った。成果は以下の形で発表した。</p> <p>Is a Hierarchical System of Cities Stable in the Long Run? - In Search of a Simple and Robust Sorting Mechanism, North American Meetings of the Regional Science Association International, Vancouver, Canada. (2017 年 11 月 10 日)</p> <p>②選好・効用の理論およびその地域経済学への応用に関わる研究 上記の科研費研究に関連し、当該研究を数年進めてきた選好・効用の理論に関わる研究の融合を図り、以下の形で発表した。</p> <p>Empirically Testing Habit Formation and Discount Utility Models: Taking into Account the Spatial Autocorrelation, The 7th Asian Seminar in Regional Science, 国立台湾大学 (2017 年 9 月 8 日)</p> <p>「状態依存型効用関数と時空間モデル」応用地域学会第 31 回研究発表大会、東京大学 (2017 年 11 月 25 日)</p> <p>③新駅設置可能性関連の研究 学内重点研究「信越線新駅設置可能性調査」のメンバーとして行ったアンケート調査・分析に、離散選択モデル等による分析を加え、以下の共著論文として発表した。</p> <p>米本清・西野寿章・深井柊弥「高崎経済大学周辺への新駅設置可能性：将来人口推計と離散選択モデルによる再検証」観光まちづくり学会誌 14, 75-81, 2017 年 3 月.</p> <p>※出版は前年度末であったが、雑誌の完成が年度を跨ぐなどして、前年度の成果として報告しなかったため本年度報告することとした。</p> <p>④震災・復興関連の研究 2011 年度まで福島県内の研究教育機関に在籍していたことから、東日本大震災・原発事故の影響および復興に関わる研究を行っているが、本年度も引き続きこれを行った。成果は以下の形で発表した。</p> <p>「福島県内各地区の集積と震災復興 —平成 27 年国勢調査結果と最新の小地域データを用いた分析」日本都市学会第 64 回大会、石巻市 (2017 年 10 月 28 日)</p> <p>また同学会において、2015 年に学会誌に掲載された以下の論文が、「論文賞」を受賞した。</p> <p>「東日本大震災と居住形態選択：『住宅・土地統計調査』のデータ検討を通じて」日本都</p>	

2 その他の事項

研究室の学生と共同で進めた研究に関し、学生が以下の発表を行った。

大沼克哉・米本清「津波避難タワーに関する費用便益分析とまちづくりー石巻市を事例として」観光まちづくり学会第16回大会、東洋大学（2017年11月12日）

日本都市学会の論文編集委員（2014年度-）・副編集長（2016年度-）を務めている。
関東都市学会の理事（2015年度-）を務めている。
観光まちづくり学会の理事（2015年度-）を務めている。

学部の入門・必修科目である「地域政策学入門」の授業を担当し、新入生全員のリアクションペーパーを読むなどして、導入科目の充実に努めた。

担当している授業「都市経済学」の授業に関し、パワーポイントの活用を大幅に進めてビジュアル化するなど、授業内容の向上・アップデートを試みた。

本年度から群馬大学理工学部において非常勤講師「公共経済学」を担当し、そちらでの教育成果と本学における教育・研究成果を相乗的に活用するよう心がけている。

研究室の2年生学生を中心に、榛東村子育て支援イベント（9月）等に参加し地域支援を行った（3年目）。

本学地域政策学会「学生向け学習・研究支援プログラム」事業の一環として、外部講師を招聘し、学生向けの講義を行っていただいた（5年目）。

本学地域科学研究所・群馬経済研究所の共催で行われた「第1回ぐんま地域経済研究会」の講師を務め、「近年の群馬県内における製造業の動向：中小企業を中心に」と題して発表した（2018年2月14日）。

その他、本学地域科学研究所の製造業研究や「長野堰の成立と歴史的役割に関する研究」プロジェクト等に関連して、所内研究会や発表会に積極的に参加した。

大学院の「地域活性化特論」において、「都市における中心と郊外、中小と大手、過去と未来の共存は可能か？」と題して授業を担当した。

市との連携授業「高崎市の課題と政策」において一部授業の解説等を担当した。

県内の高校へ出前授業を行った。

三扇祭期間中に行われた地域政策学部プレゼンテーション大会において審査員を行った（2017年11月3日）。

複数の学会において投稿論文の査読を行った。

大学院で論文審査の副査等を担当した。

学内の各委員会や入試関連の業務等も積極的に務めた。

3 次年度以降の計画・抱負

地域経済学（科研費）関連の研究や選好・効用関連の研究をさらに進め、雑誌への投稿を行う。

着任後7年目ということもあり、講義内容等をアップデートし、学生のニーズに合わせるとともに、さらに質を高める。演習に関しても、より教育的効果の高い方向性を模索する。